

都市には優れたランドマークが必要だ



9月の声を聞けば、全国的に「美術の秋」のシーズン。だから、楽しみが一段と多くなる。けれども宮崎は美術館の数が圧倒的に少ないのが気になる。

私は年間に40回ぐらゐは展覧会を見る。1年間に10往復はしている。東京、埼玉行きの際、関東一円で開かれている主要なものにはよく足を運ぶ。しかし、宮崎では同様の

楽しみはあまり味わえない。まず美術館そのものが少ない。宮崎県立美術館、高鍋町美術館、都市立美術館しかないのが、すごく寂しい。

でも企画の内容が良ければ、年に2〜3回は高鍋や都城まで行くことはある。今年2月に見た「九州の現代作家たち メッセージ 2007」展は特に良かった。し

かし欠点は、せっかく行ってもその後が良くない点だ。途方に暮れるばかり。

私は車を持っていないので、たいてい昼の前後に宮崎駅から西都城まで列車で行って美術館まで歩く。降りる人はいつも2〜3人。だが、その駅から眺める市民会館の異形の姿は素晴らしい。

美術館の後は都城歴史資料館へ回って見学してから、また歩いてオバルパティオまで行ってひと休み。そこでビールを一杯飲んでくつろぐ。後は高速バスに乗ってしまえばひと眠り。宮崎に戻ってこられる。しかし、それまでの間はすべて徒歩だ。これがなかなか距離がある。けれども運動不足の解消のためには少しも苦にならない。でも、途中の風景が楽しくないのは悲しい。

ところで、良い都市の魅力は良いランドマークがあることが条件だ。それに関して言えば、現状は造形的にユニークで世界的にも貴重とされる都城市民会館という、素晴らしい建物がすでにある。ところが、せっかくあるものを壊す予定になっ



宮崎市アートセンター
整備推進アドバイザー
田中 薫 (たなか かおる)
元宮崎公立大学教授、日本出版学会監事、日本旅行作家協会会員、みやざきエッセイストクラブ会員、宮崎市社会教育委員

ているのだというから、惜しい。この決定は残念だ。「宝」を粗末にする市と市民とは思えない。

終戦の直前、都城にも大空襲があつて市内の敷力所が炎上、被災住宅1600戸という大被害を受けたことは知っている。だから、あつたはずの伝統的な町並みが消えてしまったのは、仕方がない。江戸時代以来の島津家の城下町としての魅力がたくさん残っていたのではないかと思うのだが。

しかし、寂れる原因をわざわざ増やすのは好ましくない。決定は住民投票の結果だということも聞いている。確かに手続きの問題はない。しかし、関心を持っていない人に総花的に意見を聞くのはナンセンスだ。

ともあれ全国各地からわざわざ見に来る建築学生をはじめ、ヨソモノがいつ来ても、市内を回遊して楽しめるような魅力ある町づくりの方向に、早急に軌道修正してほしいと考える。そのためにも今ある優れたランドマークは無くすべきではない。

